

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン事業】

事業名	本格的ソフトウェア開発エンジニア育成に導入するPBL型プロジェクトマネジメント教育の開発と実証		
学校法人名	学校法人浦山学園		
学校名	富山情報ビジネス専門学校		
代表者	浦山哲郎	担当者・連絡先	永井真介

<事業の概要>

本事業では、四年制課程における実践的なソフトウェア開発エンジニア育成を狙いとす教育プログラムに関する研究開発を行った。ここで想定している育成人材像は、年々高度化の傾向にある企業の人材（新卒者）ニーズへの対応を図るべく、卒業・就職直後から開発プロジェクトにメンバーとして参画し、担当業務を遂行できる水準のスキルを備えたエンジニアである。ITスキル標準に照らして言えば、エントリーレベルの職種アプリケーションスペシャリストが想定イメージである。

事業の具体的な活動の内容としては、企業の人材ニーズ・専門学校への要望に関する調査、プロジェクトマネジメント等のIT教育事例に関する調査を実施した後、四年制課程のモデルカリキュラム及び育成人材のスキルセットの策定、PBL型演習教材の開発を行った。PBLとはProject-Based Learningの略で、プロジェクト案件として提示されるアプリケーション開発などの課題に対して、学生を中心とするプロジェクトチームが主体的に取り組み、問題解決を段階的に進めながらスキルアップを図っていくという学習方法である。開発プロジェクトの進行プロセスを体験することによって、低学年次に修得した要素知識・個別技術の統合化や具体的な状況への適用・応用方法といった実践スキルやプロジェクトマネジメント力、チームワーク力、コミュニケーション力の向上を図ることが主眼である。

<成 果>

四年制課程を想定とするスキルセットとモデルカリキュラムは、調査の結果を踏まえ、企業の人的ニーズへの対応が図られた内容構成となっている。モデルカリキュラムでは、PBLを四年間の中に系統的に配置すると共に、これまでの二年制課程では余り取り上げられることの少なかった「ソフトウェアエンジニアリング」と「プロジェクトマネジメント」に対する教育を重視している点が大きな特徴である。その意味では、専門学校におけるこれからの高度IT教育の実現に向けたひとつのモデルケースとなっているはずである。また、カリキュラム体系の中で実践教育を行うためのPBLの位置づけを示し、その教材を具体化できたことも本事業の大きな成果である。一般にPBL方式の教育形態や内容は様々であるが、学習期間半年・学習時間90時間に及ぶ本教材は、四年制課程におけるソフトウェア開発エンジニアの育成を狙いとすPBLの一例として、他の専門学校にも活用してもらうことのできる本格的なクオリティに仕上がっている。特に教材の中で取り上げられている技術面については、開発現場のノウハウが随所に盛り込まれており、その実践的な要素は四年制のみならず二年制の授業科目の内容を検討する際にも多いに参考になるものと考えられる。